

数値でみる性のマイノリティー

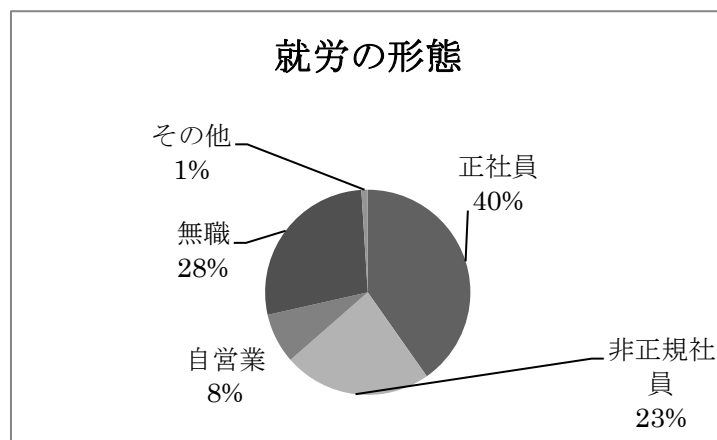
◎ “LGBT”の人口割合の調査

調査年・調査機関・調査対象の国や調査人数	LGB	T
2011年 アメリカ合衆国の成人	約 3.5%	約 0.8%
2015年 電通ダイバーシティラボ 国内 7万人モニター調査	7.6%	0.7%
2016年 博報堂 DYグループ・LGBT 総合研究所国内 8万人モニター調査	8%	0.4%
2016年 労働組合総連合会 20~59歳 民間企業 1000人	8%	1.8%

様々な統計があるが性的マイノリティーの割合は **7.6%(13人に1人)**とされている。
他の例との比較 左利きの人 8~15% AB型人 10% 障害者手帳を持つ人 6%

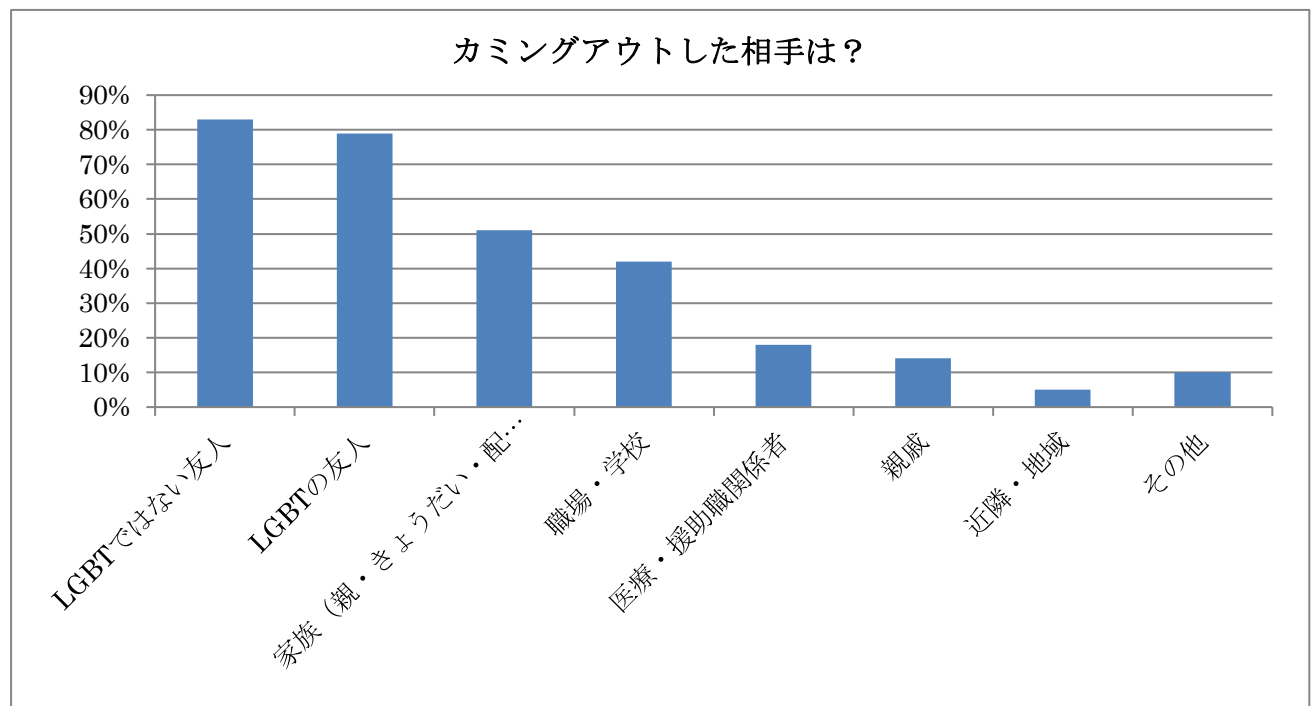
◎LGBTの人たちの回答者の総数 2,580人

無職との回答は
就学中、家事・育児・介護

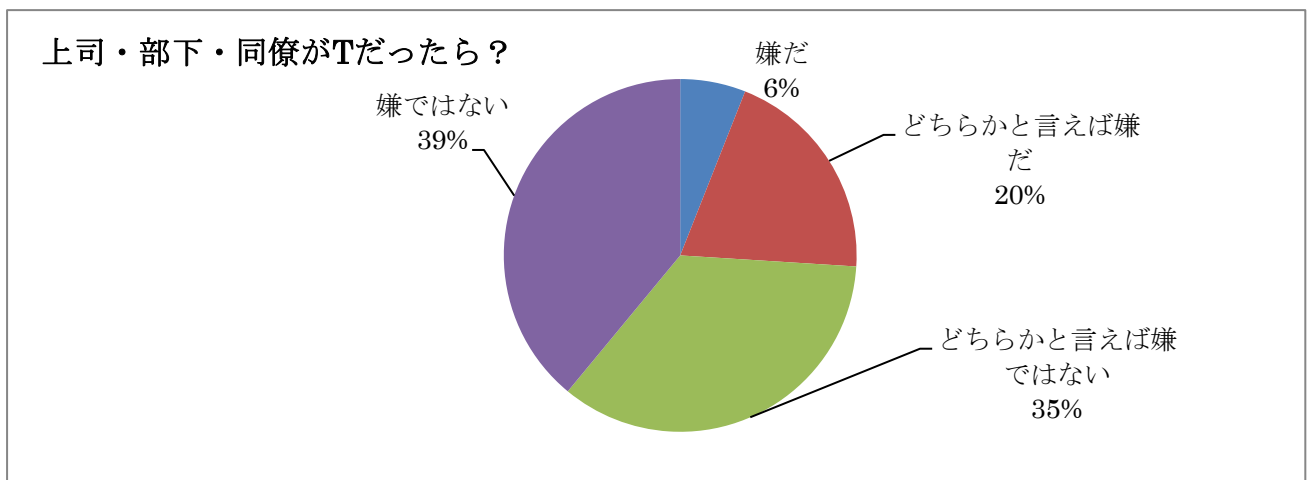
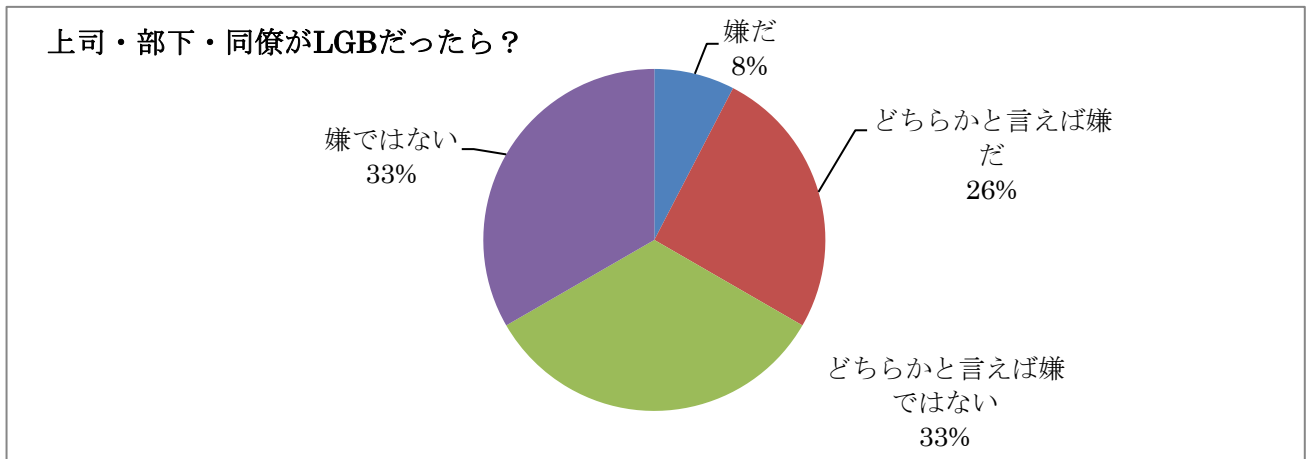


◎カミングアウトについて

回答者数 2,401人（自分の意思でカミングアウトしたことがある当事者は 43.2%）



◎職場における同僚の意識調査（全国民間企業で働く 20~50 代の男女 1000 人）



*3割ほどの人が嫌だと回答していることから LGBT の人の就労環境は厳しいと言える。

Q 周囲の人々が LGBT に偏見を持っていると思うか？

当事者 ⇒ 偏見を持っていると思う 47.7%

非当事者 ⇒ 偏見を持っていると思う 34.4%

意識の違いが大きい

Q 性的マイノリティーに関して相談したことがあるか？

当事者⇒7.7% （9割以上の当事者は相談していません）

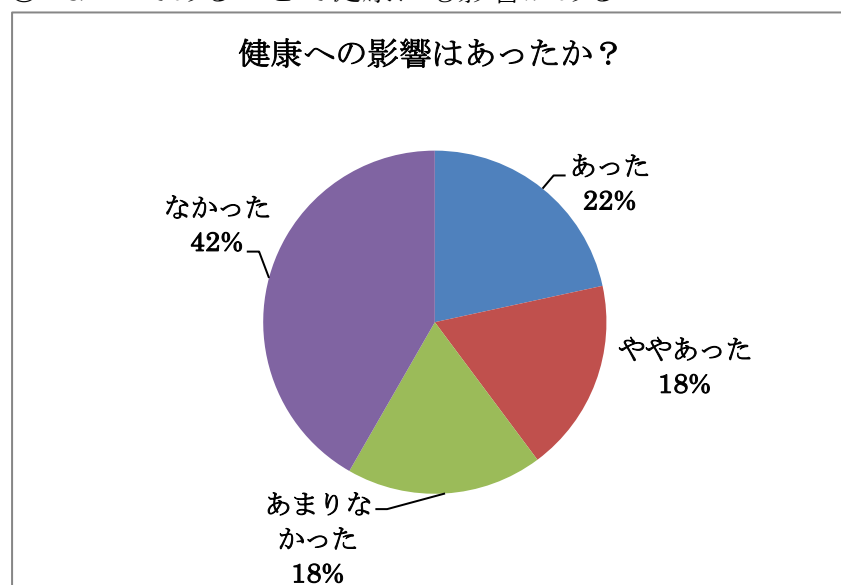
Q 周囲に LGBT の人がいると思うか？

居ると思うと回答した人は 9%程度。（50 代以降では居ると思うと回答する人は 1%未満）

約 90%の人は周囲に LGBT の人は居ないと思っている。

注）LGBT の人は人口の 13 人に 1 人（7.6%）なので自分の周りに必ずいると考えたほうが良いでしょう。

◎LGBT であることで健康にも影響がある



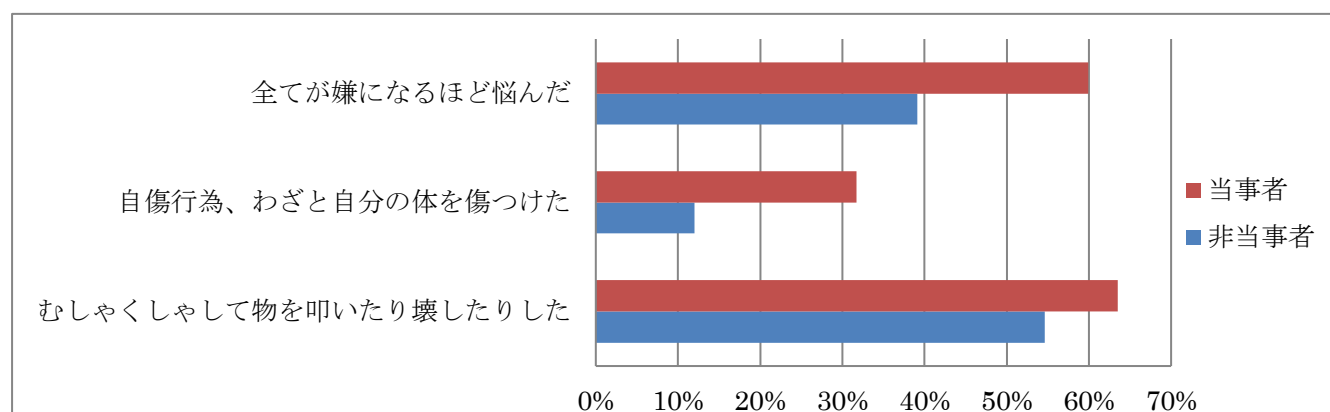
40%ほどの当事者は健康に影響があったと回答している。

以下当事者の声と事例

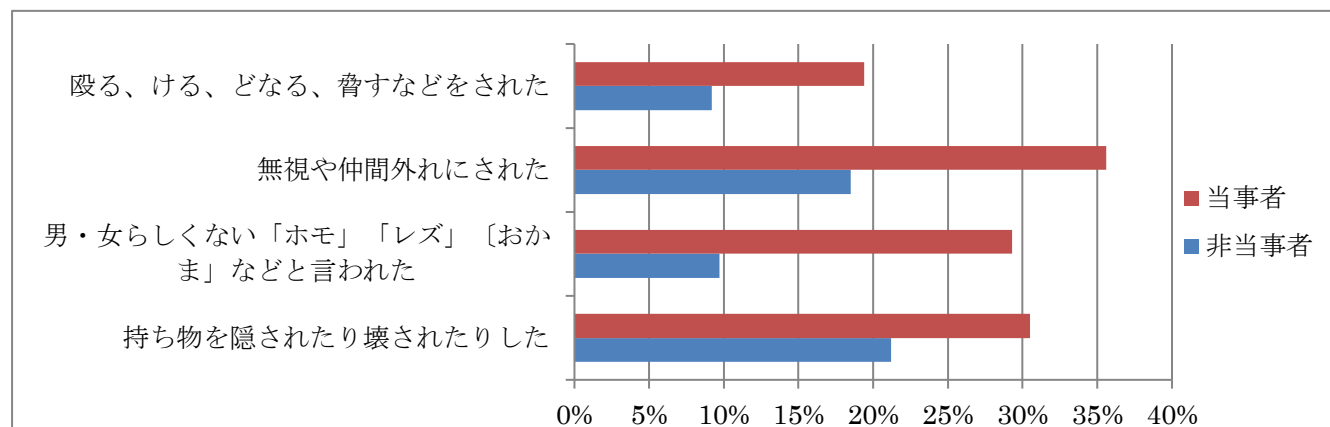
- ・自分のことが話せないストレスが重なり、パニック障害。
- ・ストレスで毛が抜けた
- ・コミュニケーションが困難になり友人関係が次々と破壊、失語症になった。

トイレを我慢して膀胱炎になった人。
ストレスからうつ状態になり精神科を受診、退職したなど、深刻な事例もある。

◎自分の体を傷つけたことがあるか？非当事者と当事者の比較



◎いじめを経験した非当事者と当事者の比較



注) 全体に LGBT 当事者の数値が高いこと、自傷行為は 30%を超えていることがわかる。
子どもの生活環境の改善が望まれる。

* この資料は NHK の調査や NHK ニュース・番組等で紹介されたデータから図形化・グラフ作成しています。